

第28回 機械要素技術展[大阪] 共同出展事業

オンリーワン技術を有するGo-Tech企業7社が、新製品・新技術を出展!!

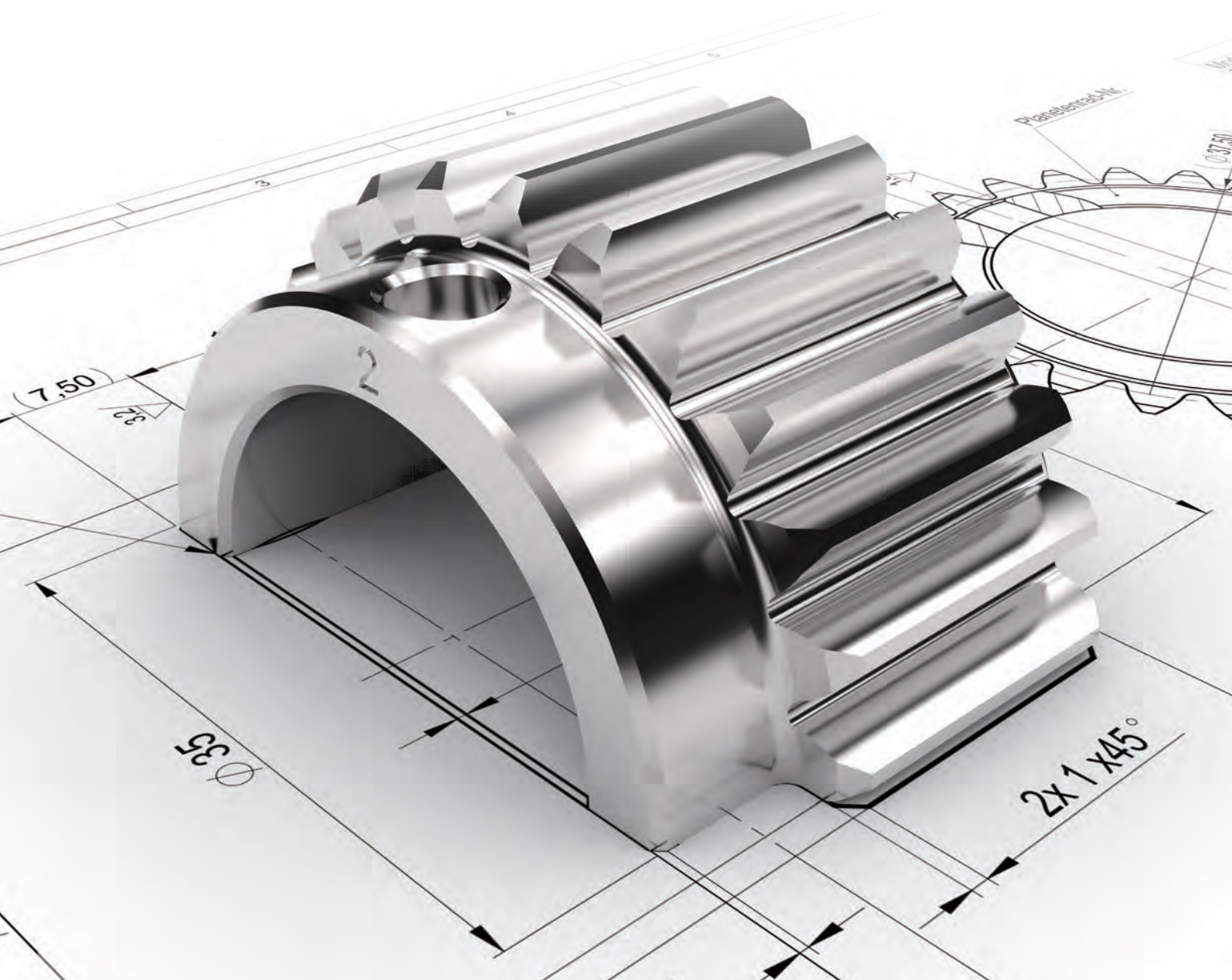
関西Tech to Biz ネットワーク

2025.10月1日水-3日金

会場 インテックス大阪
出展ブース 6号館 Bゾーン 57-36

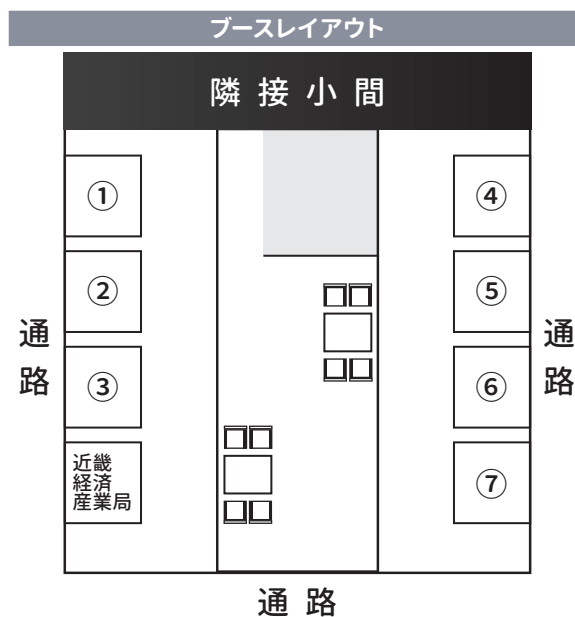
*主催 近畿経済産業局

*事務局 株式会社 地域計画建築研究所 (略称: アルパック)



出展企業一覧

- ① 大原パラヂウム化学株式会社
- ② 旭光電機株式会社
- ③ 貴和化学薬品株式会社
- ④ スキルシステムズ株式会社
- ⑤ 高丸工業株式会社
- ⑥ 二九精密機械工業株式会社
- ⑦ 株式会社山本金属製作所

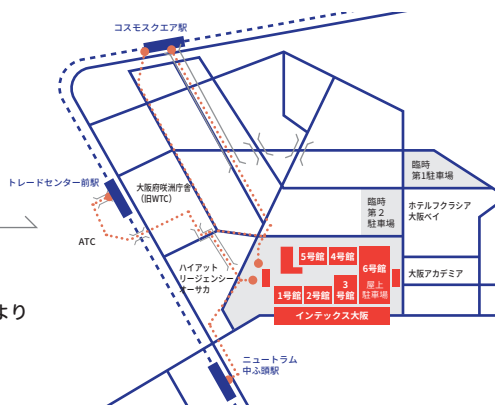


〈会場〉インテックス大阪



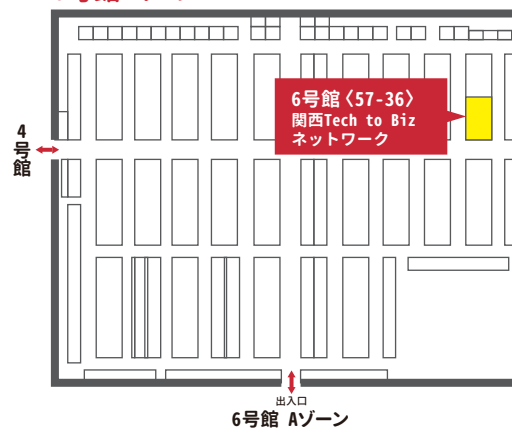
Access

- 「コスモスクエア駅」より
徒歩 約9分
- 「トレードセンター前駅」より
徒歩 約8分
- 「中ふ頭駅」より
徒歩 約5分



会場案内図

6号館 Bゾーン



第28回 機械要素技術展[大阪] 共同出展事業

関西Tech to Biz ネットワーク

では
Go-Tech事業を活用した成果・企業を支援しています。

Go-Tech事業とは?

Go-Tech事業とは、中小企業庁が実施する成長型中小企業等研究開発支援事業の通称です。過去にはサポイン事業、サビサポ事業と呼ばれていたものです。

この事業は中小企業のものづくり基盤技術及びサービスの高度化を通じて、イノベーションによる我が国製造業及びサービス業の国際競争力の強化を図るために、中小企業が研究機関等と連携して行う研究開発の取組を、最大3年間支援するものです。

関西Tech to Biz ネットワークとは?

関西Tech to Bizネットワークとは、中小企業者等がGo-Tech事業による研究開発の成果を、会員相互のネットワークにより製品化や事業化への取組を促進するための近畿経済産業局独自の枠組です。Go-Tech事業を活用した中小企業等を始め、大学や公設試等の研究機関、地方自治体、中小企業支援機関等の機関が加入しています。

会員には、今回のような展示会への共同出展や事業化促進のためのマッチング会等を開催しています。

また、メールマガジンにより事業化のための耳寄りな施策情報などもお届けしています。

関西基盤技術 マッチングNavi

Go-Tech事業を通じて高度化した基盤技術を有する中小企業等を、「基盤技術」、「府県」(当局管内の地域(福井県、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県、和歌山県))、「企業名」、「その他キーワード」のそれぞれのカテゴリーから簡単に検索できるデータベースサイトです。関西Tech to Bizネットワーク会員企業の優れた基盤技術の特徴や活用例などをA4サイズ両面1枚のPRシートとしてわかりやすくまとめてサイト上で紹介しています。PRシートは本展示会でも配布しておりますのでぜひお手にとってご覧ください。

サイトへのアクセスは、スマートフォン、タブレットからはQRコードが便利です。

関西基盤技術

検索



QRコード

お問い合わせ

〈主催〉

近畿経済産業局 地域経済部 産業技術課 事業化班

Tel. 06-6966-6017 / Fax. 06-6966-6080

E-mail kin-jigyoka@meti.go.jp

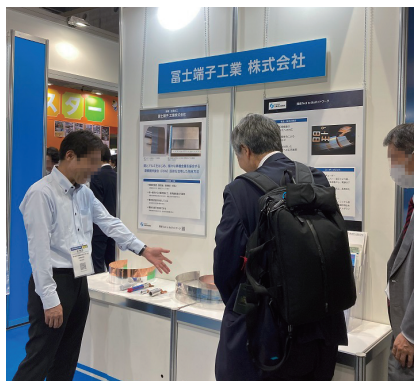
〈事務局〉

株式会社 地域計画建築研究所 (略称: アルバック)

担当: 松田、豊福 Tel. 075-221-5132

E-mail matsu-go@arpak.co.jp

toyof-hr@arpak.co.jp



酸も塩基も瞬間大量吸着 活性炭比で比表面積 3 倍 & 吸着能力 10 倍以上

～ PCP/MOF を用いた機器腐食対策、工場や畜産の臭気対策、有害ガス対策～

要素技術の概要

多孔性材料『PCP/MOF』は、気体制御において材料科学の分野でブレイクスルーをもたらした世界が注目する物質です。そのPCP/MOF の性能を損なわずにペレット・シート等の様々な形態に加工できる技術を確認しました。これによりPCP/MOF 製品の応用範囲が広がり、より多くの分野での活用が期待できます。従来の技術では困難であった**硫化水素やアンモニアなどの幅広いガスを瞬間的に大量に吸着することが可能**です。高濃度から低濃度まで、様々な環境に対応することで課題を解決します。

【特に有効なガス】硫化水素、アンモニア、メチルメルカプタンなど

【対応臭気例】排泄物、生ごみ、タバコ、塗料など

要素技術を活用してこれまでに開発した（又は開発中の）製品・サービス

製品名 b.cave® シリーズ

開発状況



開発済



開発中



アイデア段階

想定ユーザー 機械 / 設備メーカー、ケミカルフィルター、ゼネコン、工場、畜産水産など

打錠成形品 DJ シリーズ



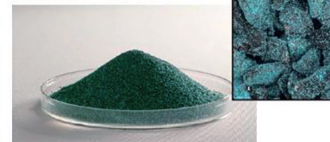
- ▶ 高密度な製剤が製造可能で機能を長持ちさせられる
- ▶ PCP/MOF の含有量が高い高性能品を容易に製造可能

押出成形品 OS シリーズ



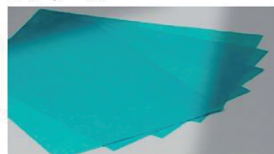
- ▶ 中空や多孔質構造にすることで処理効率が上げられる
- ▶ 打錠成形品ほどではないが PCP/MOF の含有率を上げられる

表面点接着造粒品 ZR シリーズ



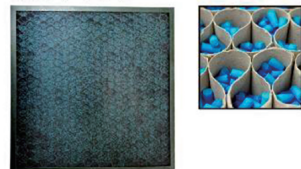
- ▶ 粒子状の為、比表面積が大きく処理効率が低い

シート品 S シリーズ



- ▶ 不織布に PCP/MOF 塗料を含浸させた製品で、塗料の販売も可能
- ▶ 基材持ち込みでの加工も可能

ハニカムフィルター OSC フィルター



- ▶ OS シリーズ（押出成形品）を充填したハニカムフィルター
- ▶ OS シリーズの性能はそのままに、幅広いシーンに対応可能

スポット脱臭機



- ▶ OS シリーズ（押出成形品）を充填したコンパクトな脱臭機
- ▶ ワンパスで強力に脱臭し、狙いを定めた臭気対策が可能

会社概要・問合せ先

企業名 大原パラジウム化学株式会社
住所 〒602-8155
京都市上京区主税町 1092 番地
URL <https://www.paragium.co.jp>

窓口担当者 営業部 気体制御技術担当
TEL 075-841-8521
E-mail s.ohara@paragium.co.jp

企業 HP へアクセス▼



既存設備で始める 電力使用量・排出量可視化 IoT プラットフォーム

～センサ × GX コンバータでスモールスタート～

クランプ式のセンサ

本体



要素技術の概要

本技術は、工場や倉庫などにある既存設備の電力使用量やCO₂排出量などを専用のIoTデバイスを後付けすることでリアルタイムに「見える化」できるレトロフィット型のシステムです。専用のIoTデバイスは当社が独自開発した製品で、分電盤に簡単に取り付けが可能であり、電力使用量やCO₂排出量などに換算可能な電流データを測定します。測定した電流データは、無線(Wi-Fi)でクラウドや社内ネットワーク上のサーバ(オンプレミス)に送られ、同じく当社が独自開発したソフトウェア「GXコンバータ」により、自動で電力使用量やCO₂排出量に換算され集計・整形されます。その結果は、パソコンやタブレットで簡単に確認できるダッシュボード(専用の可視化画面)で表示され、電力使用量やCO₂排出量を一目で把握することができます。この仕組みにより、電力使用量やCO₂排出量の測定が可能になっただけでなく、省エネ診断・設備の稼働状況の把握・異常の早期検知など、幅広い用途に対応が可能となります。さらに本システムは、拡張性を持たせることでスモールスタートが可能な設計を採用した結果、低コスト化を実現しているため、中小企業でも導入しやすいGX/DX支援ツールとなっています。

要素技術を活用してこれまでに開発した(又は開発中の)製品・サービス

製品名 wattXplorer 及び GX コンバータ

開発状況



開発済



開発中



アイデア段階

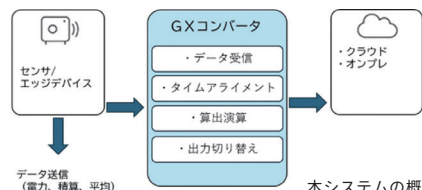
想定ユーザー 電力使用量やCO₂削減を急ぐ製造・物流・多拠点企業

クランプによる簡単設置で電力使用量とCO₂排出量を即時見える化

wattXplorerは分電盤の電力線をクランプセンサで挟み、本体をマグネットで分電盤に固定することにより工事不要で導入できます。設置直後から電流データの収集を開始し、取得データは無線(Wi-Fi)でクラウドや社内サーバへ送信されます。GXコンバータは取得データを電力使用量やCO₂排出量へ換算し、ダッシュボード上に設備別・拠点別でリアルタイム表示します。省エネ施策の効果をすぐに可視化できるため、SBT対応やESG報告を控えた企業にとって、GX推進の強力な後押しとなります。また、見える化されたデータにより現場の意識変革が進むため、組織全体で省エネやエネルギー管理への意識が高まり、持続的な改善活動が根付く基盤となります。



当社IoTデバイスを設置した状態



本システムの概念図

会社概要・問合せ先

企業名 旭光電機株式会社
住 所 〒652-0032
兵庫県神戸市兵庫区荒田町1丁目2番4号
URL <https://www.kyokko.co.jp/>

窓口担当者 中西 隆徳/社長室 担当課長
TEL 078-515-8603
E-mail info@kyokko.co.jp

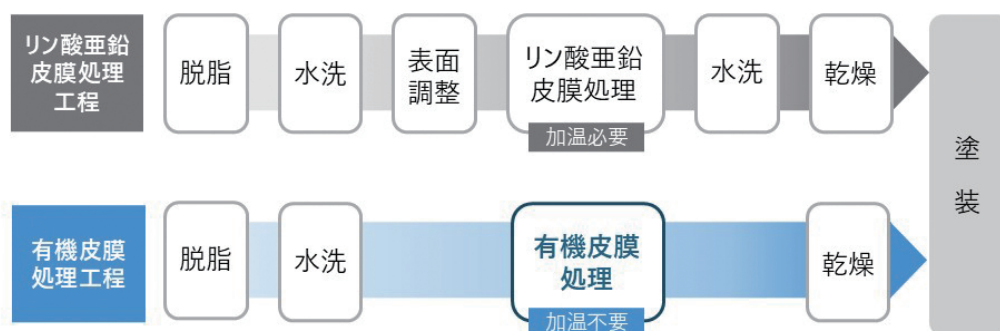
企業 HP へアクセス▼



SDGs 対応型、産業廃棄物等を大幅に削減できる塗装前処理工法の開発

～重金属・リンフリー塗装前処理剤の開発と DX の取り組み～

リン酸亜鉛皮膜処理と有機皮膜処理の行程比較



要素技術の概要

日本の主要製品である自動車、家電、鋼製家具などの金属製品には、美観と耐久性を付与するために様々な塗装が施されている。金属材料表面に直接塗装を施すと、密着不良により錆びや剥がれに繋がるため、塗装前処理が必要不可欠である。塗装前処理としては、古くから重金属とリン酸を含む水溶液を使用するリン酸塩処理が主流となっている。

本研究では、重金属およびリンを使用せず、簡便かつ省エネルギーな工程で高い耐久性を実現可能な、革新的な塗装前処理剤の開発を目的とした。さらに、塗装前処理剤の連続操業技術を確認し、自動濃度管理装置（スマートコントローラー®）を通じ、デジタルトランスフォーメーション（DX）を実現するシステムを構築した。

要素技術を活用してこれまでに開発した（又は開発中の）製品・サービス

製 品 名 フェロナイズ®OC

開発状況

☒ 開発済

☐ 開発中

☐ アイデア段階

想定ユーザー カラーワイヤーメーカー、カラー鋼板メーカー、鋼製家具メーカー、自動車部品メーカー

カラーワイヤーやカラー鋼板のリン酸亜鉛処理、鋼製家具や自動車部品等のリン酸鉄処理の代替が可能

カラーワイヤー等の塗装前処理は、処理時間が数秒から十秒程度と短時間である。本研究で開発した塗装前処理は、前工程の水洗槽から有機皮膜処理槽へと移行する際に、処理対象となる金属表面の水分が有機系皮膜成分へと置換されることで、対応が可能となっている。処理後は乾燥工程を経て塗装（一般的には溶剤塗装）が施されるが、得られた塗料密着性と耐食性は従来のリン酸亜鉛処理と同等であることが確認されている。これにより、リン酸亜鉛処理からの代替によって環境負荷の軽減、省エネルギー化、工程の簡略化を実現しつつ、塗膜性能を維持する新たな塗装前処理技術としての有用性が示された。また、「関西ものづくり新撰2021」に選定された自動濃度管理装置（スマートコントローラー®）の活用が可能で、現場のデジタルトランスフォーメーション（DX）に貢献することが可能となった。処理槽から自動で液をサンプリングして中和滴定を行い、測定結果から自動で塗装前処理剤を補給する全自動システムである。作業員による習熟度の差がなく、濃度が一定に保てるため、処理する製品の塗膜性能の安定化に大きく寄与することができた。



会社概要・問合せ先

企業名 貴和化学薬品株式会社

住 所 〒564-0062
大阪府吹田市垂水町2-20-25

URL <https://www.kiwachem.co.jp/>

窓口担当者 技術部 竹山 / 寛

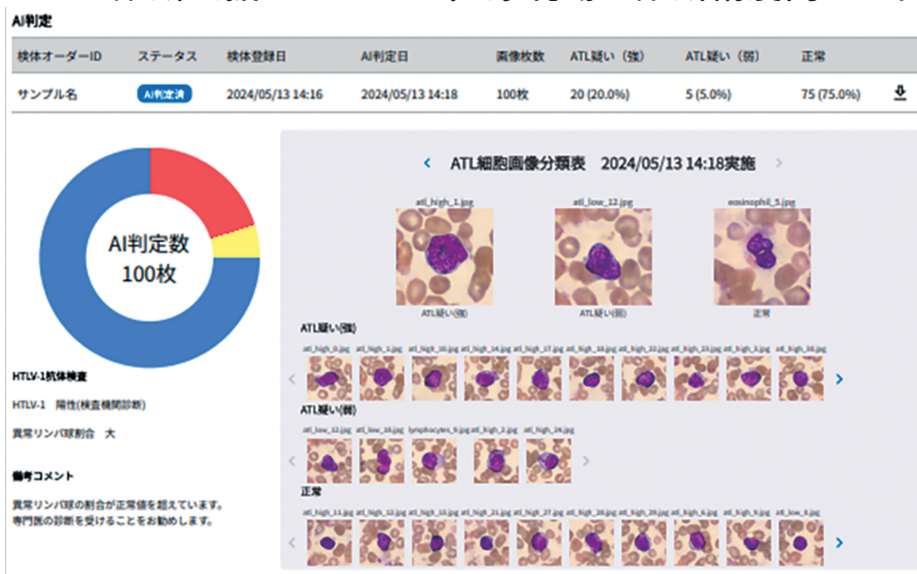
TEL 06-6170-6320

E-mail headoffice@kiwachem.co.jp

企業 HP へアクセス▼



成人T細胞白血病（ATL）早期発見のための画像AI技術 ～高精度 96.3% のAI 診断支援システムで医療現場の診断精度向上を実現～



要素技術の概要

成人T細胞白血病（ATL）は、HTLV-1ウイルス感染により発症する希少がん、従来の目視診断では医師の経験により判定結果にばらつきが生じ、高精度診断は2～3万円と高額でした。本技術では、大阪国際がんセンターとの共同研究により210症例・96,931枚の血球画像データを収集し、VAE（変分オートエンコーダー）技術により少ない教師データから架空画像を自動生成する独自技術を開発しました。3D化技術とESRGAN超解像技術を組み合わせることで学習精度を3%向上させ、ニューラルネットワークやファインチューニングなど最新AI技術を活用して目標を上回る96.3%の診断精度を実現しました。

複数の医療機関での実証実験を経て、AWS基盤セキュアクラウドシステムとして実用化し、従来の高額診断に比べ大幅なコスト削減と診断の標準化を可能にした世界初の血球画像AI診断支援システムです。現在、血液像自動分析装置メーカーや検査会社との協業により、全国の医療機関への普及展開を進めています。

要素技術を活用してこれまでに開発した（又は開発中の）製品・サービス

製品名 AI細胞診断システム「AI細胞コンソーシアム」 開発状況 ☒ 開発済 ☐ 開発中 ☐ アイデア段階

想定ユーザー 病院・診療所の医師、臨床検査技師、検査センター、血液検査機関

**血液画像をデータ化し細胞形状からAIが疾病を予測・診断する
革新的システムで、96.3%の高精度でATLなど希少血液がんの
早期発見を実現し医療従事者の負担を大幅軽減します。**

VAE技術による架空データ自己増殖システムと210症例・96,931枚の大規模データベースにより、従来困難だった希少疾患の早期発見を可能にしています。AWS基盤のセキュアクラウドシステムでリアルタイム高精度診断を提供し、2025年大阪・関西万博出展した次世代医療AIソリューションです。

正常な白血球					異常なリンパ球	
単球	好中球	好酸球	好塩基球	リンパ球	ATL疑（強）	ATL疑（弱）
DC-1が撮影した細胞画像						
AIが自己増殖した架空の細胞画像						

会社概要・問合せ先

企業名 スキルシステムズ株式会社
住 所 〒533-0033
大阪市東淀川区東中島 1-17-26
URL <https://www.skill-systems-ai-iot-dx.com/>

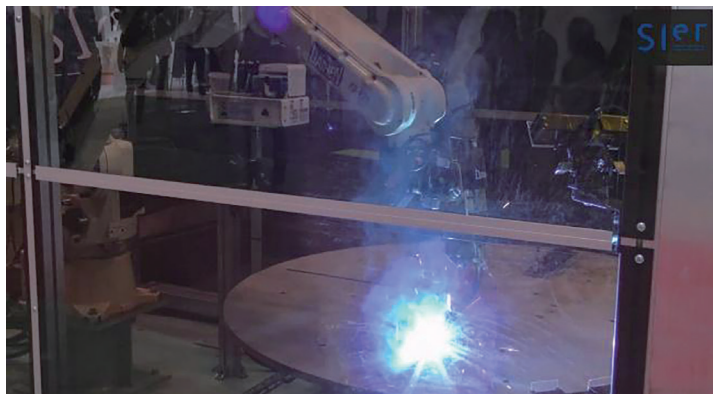
窓口担当者 横田 祐介／開発第2本部
TEL 06-6370-4199
E-mail sic-sales.d2@sic-net.co.jp

企業 HP へアクセス▼



溶接を“どこでも・誰でも・簡単に”する産業用ロボット操作の 新方式で、ものづくりの在宅化を実現する。

～ロボットとは多品種少量生産における省力化装置である～



実機ロボット(現場)



遠隔操作(事務所等)

要素技術の概要

現在の産業用ロボットは扱いが非常に難しく、メーカー毎に操作機器すら異なりますが、PCにおけるWindowsと同様『メーカー横断的に、誰でも簡単に』遠隔でロボットを扱える新たな操作方式を開発しました。具体的には、PC画面上のロボットをマウスで引っ張るだけで自由に操作可能であり、見た通り直感的に扱えます。また、画面にはリアルタイムの実映像にCGロボットを重ねて表示させる事で、バーチャル上で動作後の未来を確認してから実機ロボットを動かす事ができるため、遠隔でも安全に扱えます。既に海外からロボットを遠隔操作して溶接する事も実現しており、今後は溶接作業に留まらずあらゆる作業のロボット化・在宅作業化が可能になります。

要素技術を活用してこれまでに開発した（又は開発中の）製品・サービス

製品名	PC遠隔操作溶接ロボットシステム/WELDEMOTO	開発状況	☒ 開発済	☐ 開発中	☐ アイデア段階
想定ユーザー	製缶加工業（製造業全般：多品種少量生産・危険エリア海外拠点等の遠隔操作等）				

一般的なPCを用いて、“どこでも・誰でも・簡単に”ロボットを扱える新たなOS（操作方式）であり、簡単なマウス操作で実機のロボットを動かして溶接作業を実施できます。産業用ロボットの扱いは難易度が極めて高く、国内には1万人に1人しかロボットを扱える人材がいないと言われていたのですが、ロボットを装置としてではなく人の技術技能を補う道具のように活用いただけます。

人手不足が深刻な社会課題である一方で働きたくても働けない人も多い実情がありますが、『主婦や車椅子の方』でも『在宅で服装も気にせず』モノづくり現場で働けます。時間も場所も仕事内容も、もっと自由に選択できる社会を実現します。



WELDEMOTOは、溶接の“Welding”と遠隔の“Remote”を組み合わせ、ロボット“でもっと（DEMOTO）”多くの事を実現したいという想いを込めた造語です。今後は例えば穴あけであればDRILLDEMOTOのように、様々な企業とも連携しながらアプリケーションを増やす事で、多くの課題を解決していきます。

【WELDEMOTO/一般的なPCによる遠隔操作】

特徴	- 誰でもどこでも簡単にロボット用いて作業を行える。 - ロボットメーカーの既存技術を損なう事もない。
操作性	- マウスで矢印をドラッグ&ドロップするだけの直感的な操作。 - 対象作業のスキルは不要。（ロボットが担う）
安全性	- 環境の良い遠隔地で操作可能であり安全。 - リアルタイムの実映像で工場の安全も確認可能。 - 予めバーチャル上で実機動作後の未来を確認可能であるため理論上は衝突等の事故リスクがない。
普遍性	全メーカー全機種で共通化が進んでいる。
長期的な効果	ロボットの活用により作業の数値化が進み職人の技術技能の伝承が容易となる。モノづくりの在宅化も可能。

会社概要・問合せ先

企業名 高丸工業株式会社
住 所 〒662-0925 兵庫県西宮市朝風町1-50 JFE西宮工場内
URL <https://www.takamaru.com/>

窓口担当者 高丸 泰幸
TEL 0798-38-9200
E-mail yasuyuki@takamaru.com

企業HPへアクセス



AI活用による小径パイプ内面粗さの非破壊自動測定 及び高度リカバリー技術を統合した一貫開発



A. アラサミール



βチタン小径パイプ



64チタン ELI 小径パイプ

B. 精密金属加工の受託サービス

要素技術の概要

環境・生化学・医用等の分野で用いられる金属製の小径パイプの品質保証は、一定のサンプルを抜き取り、小径パイプを縦割切断し、内面を露出させて接触式表面粗さ測定器を用いて内面粗さを分析する方法（破壊検査）が一般的です。破壊検査は、検査用に余分にサンプルを作成しなければならないことによるコスト面、及び全数検査できないことによる品質面での課題がありました。そこで当社は、小径パイプ（内径φ1.5mm～φ0.25mm）の内面の状態を、カメラによる画像を用いて面粗さ・加工時のシワ・異物・油分に細分し、AIを活用して定量的に判定する全数非破壊自動測定装置、及び基準から外れた小径パイプの内面の欠陥に応じた洗浄等の高度リカバリー技術を統合した装置の開発を行いました。

要素技術を活用してこれまでに開発した（又は開発中の）製品・サービス

製品名 A 非破壊小径パイプ内面粗さ測定装置「アラサミール」

想定ユーザー A 医療部品・分析機器メーカー
B 医療部品・分析機器メーカー・半導体関連製品のメーカー

B 精密金属加工の受託サービス

開発状況



開発済



開発中



アイデア段階

A 「アラサミール」

小径パイプ内面に極細ファイバースコープを挿入して得られる画像から内面粗さを測定する装置を開発しました。小径パイプの内面品質を非破壊で確認できるだけでなく、測定作業性・装置操作性を維持したまま、小型化・軽量化を実現しました。

・測定範囲：Ra0.02～1.0 μm

・測定ワークサイズ：

内径φ0.45mm～φ3.0mm 長さ340 mm以下

B 精密金属加工の受託サービス

当社では、独自の造管技術を用いた小径パイプの加工を得意としております。加工可能な小径パイプの一例として、バネ性を有する軽量で高強度なβチタンや、パイプ化は不可能と言われていた64チタンがあります。さらに、自社開発の非破壊検査装置を用いることで、小径パイプの内面の面粗さや異物を非破壊で検査できるため、高品質な製品を提供できます。また、当社独自技術と組み合わせることが可能な超高精度加工技術を下記にて紹介します。

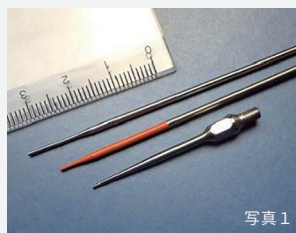


写真1



写真2

・絞り加工（スウェージング）
：写真1

・内径研磨（研磨後Ra0.006）
：写真2

会社概要・問合せ先

企業名 二九精密機械工業株式会社
住所 〒601-8454
京都府京都市南区唐橋経田町33-3
URL <https://futaku.co.jp/>

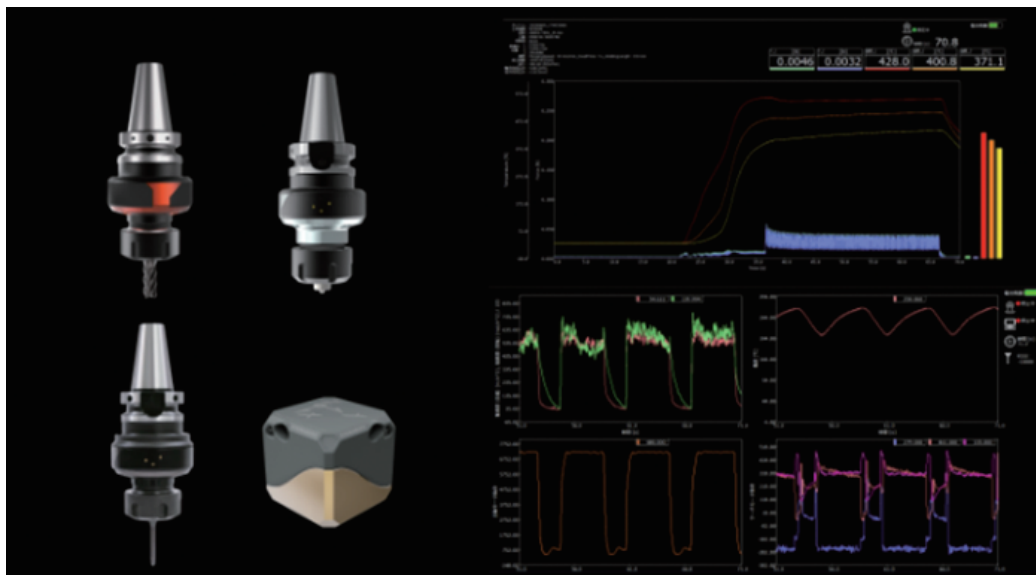
窓口担当者 営業部
TEL 075-661-2931
E-mail futaku-info@futaku.co.jp

企業HPへアクセス



IoT を活用した工作機械の智能化による自律加工技術の開発

～経験と勘に頼る切削加工・摩擦攪拌接合（FSW）を、
加工現象の見える化により定量化し、高精度で制御する～



要素技術の概要

当社は、精密切削・摩擦攪拌接合(FSW)技術と、加工中の工具の熱・振動・力をリアルタイムで計測する「MULTI INTELLIGENCE®」技術を保有します。当社の熟練作業者の加工時の種々の加工条件、加工現象、加工環境と仕上がり結果を計測して数値化し、標準データとして整備しました。この標準データと「MULTI INTELLIGENCE®」からの温度・振動データ等を用いて、自動的に加工条件（工具回転数や送り速度）を制御し、自動で工具交換を行い、異常時動作の実行指示を行う加工制御ソフトウェアを開発しました。

要素技術を活用してこれまでに開発した（又は開発中の）製品・サービス

製 品 名 MULTI INTELLIGENCE® シリーズ

開発状況



開発済



開発中



アイデア段階

切削・接合・加工プロセスをリアルタイムでモニタリングするIoTデバイス群

- リアルタイムのデータ取得・記録
工具先端やプローブ先端の温度や振動を、加工中に表示・保存。赤外線では難しいクーラント下での計測や、小径工具の振動検出も可能です。
- 高度なモジュール一体化技術
ツールホルダ内部に、アンプ・A/Dコンバータ・制御基板・無線送受信機を集約。無線通信 & バッテリー駆動により、ワイヤレス & 長時間稼働・データ取得が可能です。
- 加工現場への即時活用と交換対応
BT/HSKシャンクに対応し、マシニングセンタやロボットに取り付け可能。従来の工具と同様に扱えるため、現場導入が容易です。
- AI制御・予兆検知への応用
工具摩耗や接合異常の兆候を検知し、自動で加工停止・工具交換指示を出すなど、AI連携による高度なプロセス制御にも対応します。
- 効率改善・品質向上に関する実使用事例
クーラント流量の最適化に基づく冷却性能の定量評価により、加工現場全体の電力消費削減（約20%）に成功した実績などがございます。



会社概要・問合せ先

企業名 株式会社山本金属製作所
住 所 〒547-0032
大阪府大阪市平野区背戸口2-4-7
URL <https://www.yama-kin.co.jp>

TEL 06-6704-0811
E-mail info@yama-kin.co.jp

企業 HP へアクセス▼



成長型中小企業等 研究開発支援事業 (Go-Tech事業) のご紹介

※下記は令和7年度公募の内容となっております。令和8年度公募は変更される場合がございます。詳細は公募要領をご確認ください。

- 特定ものづくり基盤技術やIoT、AI等の先端技術を活用した高度なサービスに関する研究開発や試作品開発等を支援し、イノベーションによる我が国製造業、サービス業の国際競争力の強化を図ります。
- 中小企業等が大学・公設試等の研究機関等と連携して行う、事業化につながる可能性の高い研究開発、試作品開発及び販路開拓への取組を最大3年間支援します。

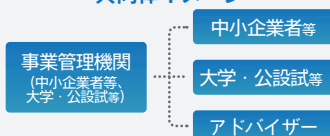
公募期間 (参考：令和7年度公募実績)

令和7年2月17日(月)～
令和7年4月23日(月) 17時まで

申請対象者

- 中小企業者等を中心とした共同体。
- 単独では申請できません。
- 共同体は、研究等実施機関、事業管理機関を含む2者以上で構成する必要があります。

共同体イメージ



申請方法

- e-Rad(府省共通研究開発管理システム)上のみで受け付けます。

(独) 中小企業基盤整備機構によるサポート

- 申請書作成や研究開発計画における技術面の相談等を国と連携して実施しています。

対象事業

- 「高度化指針」*を踏まえた研究開発等で、事業化までの道筋が明確に描けているものが対象です。
* 中小企業の特定制ものづくり基盤技術及びサービスの高度化等に関する指針。
- 補助事業期間終了後5年以内を目途に事業化を達成する目標を策定できる事業であることが必要です。
- かつ、中小企業者等自身が下記の成長を目標として策定できる事業であることが必要です。

要件①

付加価値額
+3%以上/年

要件②

給与総支給額
+1.5%以上/年

要件③

事業場内最低賃金
地域別最低賃金
+30円

- 申請は以下の2つの枠のいずれかを選択できます。

(1) 通常枠

- 中小企業者等が大学・公設試等と連携し、高度化指針を踏まえて行う研究開発等を支援する枠

(2) 出資獲得枠

- 高度化指針を踏まえて研究開発等を行う中小企業者等であって、当該研究開発プロジェクトに、ファンド等から補助事業終了後1年までの間に投資を受けることが見込まれる事業者を支援する枠

補助事業期間・補助上限額等

(1) 補助事業期間

- 2年度 又は 3年度

(2) 補助率

- ① 中小企業者等 補助率: 原則 2/3 以内
- ② 大学・公設試等 補助率: 原則 定額

(3) 補助金額(上限額)

① 通常枠

単年度当たり 4,500万円以下
2年間合計で 7,500万円以下
3年間合計で 9,750万円以下

ただし、中小企業者等が受け取る補助金額が補助金総額の2/3以上であることが必要です。

② 出資獲得枠

単年度当たり 1億円以下
2年間合計で 2億円以下
3年間合計で 3億円以下

ただし、補助上限額はファンド等からの出資予定金額の2倍とします。

その他申請に関すること

審査基準

- 申請対象者及び申請対象事業の内容を満たしている申請に限り、以下の項目を基に評価し、総合的な審査を行います。「Ⅳ. 出資獲得面からの審査項目」は出資獲得枠でのみ審査を行います。

Ⅰ. 技術面

- ① 技術の新規性、独創性及び革新性
- ② 研究開発目標値の妥当性
- ③ 目標達成のための課題と解決方法及びその具体的実施内容
- ④ 研究開発の波及効果

Ⅱ. 事業化面

- ① 目標を達成するための経営的基礎力
- ② 事業化計画の妥当性
- ③ 事業化による経済効果
- ④ 高付加価値企業への成長・変革

Ⅲ. 政策面

- ① 経済産業政策との整合性
- ② 中小企業政策との整合性
- ③ 国が推進する政策との整合性

Ⅳ. 出資獲得面

- ① 公的支援の必要性
- ② ファンド等出資者のハンズオン支援体制
- ③ 出資金が企業価値の向上に与える効果の程度

※出資獲得枠のみ

- 中小企業庁に設置する外部有識者等による採択審査委員会において審査します。
- 採択審査委員会は非公開で行われます。必要に応じてヒアリング等を行う場合があります。
- 出資獲得枠の審査では、必要に応じて対面審査(状況によってはリモート会議)を実施します。対面審査は、共同体からのプレゼンテーション及び質疑応答を予定しており、事業管理機関、主たる研究等実施機関及びファンド等出資者の出席を原則とし、詳細な日程は公募締切後に別途連絡します。
- 審査には、過去に採択を受けた旧サポイン事業・旧サビサ事業の事業化状況報告書や国が行うフォローアップ調査等への回答状況、その内容(進捗状況等)も加味します。

第28回 機械要素技術展[大阪] 共同出展事業

オンリーワン技術を有するGo-Tech企業 7 社が、新製品・新技術を出展!!

関西Tech to Biz
ネットワーク



発行 経済産業省 近畿経済産業局 地域経済部 産業技術課
編集 株式会社 地域計画建築研究所（略称：アルバック）